



2012年11月 第10巻第11号

かく語りき—聖人の言葉

「神はすべての人の中におられるが、
すべての人が神の中にいるわけではな
い。だから我々は苦しむのだ」
(シュリー・ラーマクリシュナ)

「わたしは世の終わりまで、いつもあ
なたがたと共にいる」
(イエス・キリスト)

今月の目次

- ・かく語りき—聖人の言葉
- ・今月の予定
- ・2012年6月の逗子例会
「主ブッダの説いた奉仕の教えの実
践」 曹洞宗・長寿院 篠原鋭一住職
による講話
- ・活動報告
- ・忘れられない物語
- ・今月の思想

今月の予定

・ 生誕日 ・

スワーミー・プレマーナンダ
12月21日(金)

クリスマス・イブ 12月24日(月)

・ 行事 ・

12月2日(日)

札幌講話

お問い合わせ：逗子協会 046-873-0428

12月4日(火) 15:00

龍谷大学にて講話

場所：京都市下京区七条通大宮東入大
工町125-1

テーマ：スワーミー・ヴィヴェーカー
ナンダとタゴール、そして日本

対象：どなたでもご参加できます。

お問い合わせ

：<http://rindas.ryukoku.ac.jp/access/>

12月9日(日)、16日(日)

14:00～15:30

ハタ・ヨーガ・クラス

場所：逗子新館(アネックス)

12月16日(日) 10:30~16:30
逗子定例会
場所: 逗子本館
お問い合わせ: 逗子協会 046-873-0428

12月21日(金)
ナラ・ナーラーヤナ
現地でのお食事配布など。
お問い合わせ: 佐藤 090-6544-9304
* 1月は3日(木)になります。

12月24日(月・祝) 19:00~21:00
クリスマス・イブ礼拝
場所: 逗子本館
お問い合わせ: 逗子協会 046-873-0428

※来年1月1日は、新年恒例のカルパタル(三寺参り)が予定されています。スワミーと一緒に、鎌倉八幡宮、鎌倉雪ノ下カトリック教会、鎌倉の大仏と、3つの宗教の聖所をお参りします。皆様どうぞご参加ください。

2012年6月の逗子例会 ブッダ生誕祝賀会

2012年6月17日(日)、6月の逗子例会にてブッダ生誕祝賀会が開催されました。祝賀会は、逗子センターの別館でスワミー・メーダサーナンダによる礼拝と供物奉獻で始まりました。ブッダ生誕祭では毎年仏教の僧侶をゲスト・スピーカーとしてお招きしています。今年は、曹洞宗・長寿院(千葉県

成田市)の篠原鋭一住職にお越しいただき、「主ブッダの説いた奉仕の教えの実践」をテーマに講話をいただきました。



初めに、スワミーが篠原住職を紹介しました。「ヒンドゥー教では、お釈迦様をととても尊敬しており、お釈迦様を神の化身と考えています。我々のインドの本部であるベルル・マトでも、お釈迦様の誕生日を祝います。ラーマクリシュナ僧団では宗教の調和を説いていますから、お釈迦様だけでなくイエス・キリストのお誕生日も祝います。神様は一人ですが、信仰の数だけ道があり、我々の聖典だけが正しいというのではなく、すべての宗教を尊重しています」

「本日ご招待した篠原鋭一さんは、長寿院のご住職をされている他、『できることからボランティア』というグループとNPO法人 自殺防止ネットワーク『風』の二つの代表をされています。ライフワークとして、他国への教育支援と自殺防止活動をなさっています。1979年にはカンボジアで難民救済活動

も行っていらっしやいました。1995年からは、自殺願望を持っている人たちのために無料の電話相談を行っていらっしやいます。これまでに一対一の相談や全国での講演活動などを通じて、自殺を志願している人たち6千人以上の救済に努めていらっしやいました。また本もたくさん書いていらっしやいます。この度は、鈴木法拳さんのお取り計らいにより、今日の催しが実現しました。ご住職が自ら実践されているブッダの教えと奉仕の精神について今からお話しいただき、私たちもそれを実践していきましょう」

主ブッダの説いた奉仕の教えの実践 篠原鋭一住職

今、日本では二つの大きなものがまわっておりません。一つは経済が全くまわっていない。もう一つは人間の優しさです。昨年あたりからマスコミを中心に絆という言葉が連呼されていますが、今、日本に本当に絆があるかどうか分かりませんね。絆ということ言うのであれば、日本はもう一度その絆を再生する様々な活動を展開していかなければならない。

日本は戦後、教育の中に宗教というものを取り入れなかった。宗教と言いましても、一つの宗教を押しつけるということではありません。人間が生きる一つの羅針盤として様々な宗教があり

ます。憲法では宗教の自由を定めておりますからどの宗教を選んでも構いません。しかし、正しい宗教を持って、正しい人生、穏やかな人生を歩むべきだというような意味を持つ条項が憲法から一切排除されてしまいました。その結果が、現在のこういう状態を生んでいるとしか私たちには思えません。

ブッダの教えと日本

基本的に宗教では、亡くなった人のために説かれたものは一つもありません。生きている人のために、生きている私たちがこの世で幸せになれるように、なるべく具体的な道筋を事細かに、それぞれの宗派の言葉を使って説かれているのです。ここに『原始仏教』という本があります。これは、お釈迦様のご存命の頃に語られたことをまとめたものなので、原書はパーリ経典、あるいはサンスクリット語で書かれています。これを拝見しても、亡くなった人に対して説かれた教えは一つもありません。今日このように皆さんがお集まりになって儀式を共にして学ばれるという形は、ごく正常な宗教、信仰を持っている方々の姿です。儀式はいらないじゃないかという風潮が最近出ていますが、儀式というものは心の表現であり、ただ心の中で思っていれば良いということではありません。先ほどのように皆さんで三帰依文を唱えようと、心が仏に向いていきますね。

日本の仏教は、今や原始仏教というものが見えにくくなってしまっています。ご存知の通り、仏教というのは北方仏教、南方仏教と分かれ、北方仏教がとりわけ中国から朝鮮半島を渡った間に世俗信仰と混ざって、日本に渡った時に独特の仏教となりました。例えば、皆さんがお葬式の時に黒い喪服に身を固めて参列なさいますが、これは完全に中国の儒教の形であって、インドのお釈迦様の時代にはそういうことはありませんでした。また、本来お坊さんは労働をすることはなかったのですが、禅寺で自給自足が始まり、袈裟が労働に邪魔になるということで簡略化されました。今日私が着ているのがその袈裟です。この袈裟の模様は田んぼと畦道を表しています。お釈迦様が在世の頃、村々を歩いて托鉢をなさった時にある農家の方から指摘をされます。あなたは働かないで食糧を集めてそれを食べているが、そういう生活は如何なものかと。するとお釈迦様は、あなた方は田を耕していますが、私はあなた方の心の田を耕している、あなた方は米を作り野菜を作って人々を幸せにしているけれど、私はあなた方の心の田を耕してあなた方を幸せに導こうとしている、と言いました。その象徴がこの袈裟なんです。

ブッダが説かれた教えというのは、私たちがこの世に生を受けて人間として

生きていく上で、こう生きることによってあなたは幸せになるはず、というものを、ほとんどがマンツーマンでお話しになっています。ここがお釈迦様のすごさだと思うのです。もう一つは、お釈迦様の時代にもあの世はあるのかないのかという質問が相当ありましたが、それに対してお釈迦様は無記の姿勢を取りました。つまり、分からない、行ってみれば分かる、ということです。お釈迦様の考え方では、あの世はあっても無くても良いのです。今生きているこの世で幸せになることこそが第一目的ではないですか、そのために私が説く様々な比喻を用いた教えを実践してください、というものです。お釈迦様はかなりきつい言葉もおっしゃっています。名医があなたの体を診断して、あなたはこういう病気ですからこの薬を飲めば治りますよと告げたのに、あなたがその薬も飲まずに病気だ、病気だと言っているのであれば、それはその医者責任ではない。同じように、私が説いた教えを実践せずに幸せにならないと嘆くのであれば、それは私の責任ではない、と実に明快なことをおっしゃっています。

自殺と無縁死

私が 20 年間向き合っている大きなテーマは自死、自殺の問題です。残念ながら、日本では今、年間 3 万 3 千人近い方が自ら命を絶っておられます。も

う一つ、少し古くなりますが NHK が放映していた番組で、「無縁社会」となった日本、つまり自分と自分以外の人との関係が切れてしまっている日本の社会で、ひっそりと亡くなっている方が年間 3 万 2 千人と言っていました。この方々の人数を合わせると 7 万人近くになるのです。



昨年、中東のアルジャジーラという TV 局から 10 人ものスタッフが私の寺に来て、日本のこのような状況取材しました。私がプロデューサーに、なぜこれだけの人数を動員して日本に来たのかと尋ねると、日本は今の世界で珍しい、考えられない国だということでした。無縁死と自死で年間 7 万人もの生命が消えているが、こんなことは戦争があつたってない。日本のどこかにとてつもなく大きな穴が開いていて、その穴が日本人を死へと吸い込んでいくのではないか、その穴を探して撮影し、ヨーロッパや中近東で放映したいと言いました。これは当たっています。彼らが言った大きな穴とは何かというと、日本の社会です。

自殺という言葉は自ら殺すと書きま

すが、これは古今東西ずっとありました。三島由紀夫さんが割腹自殺をしましたが、実に計算し尽くされた人生の幕引き、明らかな自殺です。ところが、私の経験から、今自殺として数えられている方々に一人として自らの生命を絶ちたいと思っている人はいません。今の日本の社会構造が、一人の人にとっても多くの苦悩を背負わさざるを得ない社会状況になっているのです。私はこれを多重苦と言っています。

多重苦

リストラされたお父さんがすぐに自らの生命を絶つということはありません。リストラから経済苦、そして家庭崩壊、子供が学校へ行けなくなりその後の就職の問題が生じる等、自己の責任でない様々な苦悩が次々に押し寄せた時に、存在の否定ということが起こってくる。リストラという言葉でごまかしているけれど、それは、あなたはもう必要ありませんとその人の存在を否定する行為です。自己有用感という言葉があります。自分の存在がそこで認められていると感じること、夫婦で言うならば、あなたがいて私は幸せだ、と言い合える関係です。あなたは私にとって必要ありませんという決断を下されてしまった方というのは、生存が否定されたことで孤独に襲われてくるのです。孤独というのはまだ解放されることができず、ある種の孤独

感は誰でもあります。誰かが寄り添ってくれたりすると、それは和らぎます。

ところが、他との関係が断絶すると孤立ということになります。今、私のところには高校生もやって来て、消えたいと言います。本当に心が通い合って互いに心を許しあえる絆という思いを持ってない人が、15才から80才以上のおばあちゃんまでいます。そうすると孤立するのですね。孤立すると、死にたい、自殺したい、どこかに行ってしまう、と思う。ここのところが非常に大きなポイントなんです。孤立をすると自死念慮が起きるのです。ここの所で、どうしたの、良かったら私に話してくれないか、私にお手伝いできることはないか、と言葉をかけられた孤立者は、私にも寄り添う人があったんだと感じ、ゆっくりと孤立からの解放が始まります。だから私は昼夜を問わず、相談の電話を受け、お会いできるようにしています。孤立から解放されると生存への意欲がゆっくりと芽生えていって、ほとんどの方たちは立ち上がっていきます。しかし、自死念慮が湧いてきた時に誰からも声をかけられないと、その時には自死実行ということになってしまいます。

ある日77才のおばあちゃんから電話がありました。6年前にご主人を亡くした方で、首を吊ろうとしたが縄が切れて死ねなかったのもっと強い縄を

送ってほしいと言うことでした。私がそれをしたら自死を手伝うことになるのでできないが、おばあちゃんに生きていこうという思いが少しでもあるならばすぐにでも会いに行きますと答え、成田から青森の花巻まで飛んでいきました。この女性は5人の子供を育てたそうで、5人とも家族を持って仙台に住んでいるがこの5年間一人も会いに来ない。手紙を出しても返事は来ないし、電話をかけてもすぐに切られてしまう。私は捨てられた人間だからお墓に入ってもいいでしょう、とおっしゃいました。私は、お友達になりましょう、どんなことでも話し合いましょうと言いました。今は週に一度電話があります。こういう例はたくさんあります。

問題は日本社会のあり方

これを単なる親子関係の問題と取ってしまったら、まさに親子の自己責任であなたたちが解決したら良い問題だとなってしまうが、それでは本質を間違えます。いずれ日本が高齢社会となるということは、今から50~60年前から分かっていたことなのです。こういう状況が来るといふことに何ら手を打たなかった日本。その日本とは誰か。皆さんであり、私たちなのです。他人事ではないのです。この間、仮設住宅の中で一人のおばあちゃんが亡くなっていました。メモの中に、私のような年寄りが皆さんにこれ以上迷惑をかけ

るようなことはできませんから、私はお墓の中に非難しますとありました。辛いですね。こういう社会的な構造を作ったのは誰か。私たちなのです。日本人、日本の社会なのです。だから他人事ではないということを皆さんにお伝えしたいのです。

時々、そんな活動はやめて、死にたい奴には死なせればよいという電話が来ます。結構女性から多いのです。死にたい人なのだから死なせてあげた方が温かいのでは、と言われます。私は質問します。あなたにお孫さんはいますか、お孫さんが高校生になって凄まじいじめに遭って、学校からの帰り道に犬のフンを口に入れられて、こんな生活もう嫌だから死にたいと言った時、そんなに苦しいのなら死んだ方がいいと言いますか、と。すると、かわいい孫にそんなこと言うわけがないでしょうと答えます。つまり、自分の問題となったら見方が変わってくるのです。他人事だから、死なせればよい、となる。ここが日本の無関心さ、何事においても無関心なのです。

マザー・テレサの有名な言葉に、「愛の反対は無関心である」というものがあります。今、日本は無関心状態です、何事も他人事です。初めに、経済活動がまわっていないと申し上げましたが、温かさを回さなければ駄目です。これでは皆、孤立してしまふ。それで皆さ

んにお願いしたいのは、孤立状態というような環境を身近に作らないようにすることです。孤立の状態から解放されれば、日本で3万数千人といわれている、自ら生命を絶つ方々は半数以上減るのではないかと思います。

この間の新聞発表では、若者がこの世に対して悲壮感、不安感を持っていて、いつ死んでもいいと思っている。こんな社会を我々は作ってしまったのです。今、日本の私たち聖職者が、皆さんのような宗教的な思いのある方に対して、自分はこのことに対して自ら動く覚悟を決めて様々な活動をお願いすれば、自死の問題はかなり大きく変化するのではないかと思います。

子育てをしている37才の女性が育児ノイローゼになっていて、ご主人の後を追いたいと電話をしてきました。ご主人は働き過ぎで42才で突然死で亡くなり、3才と1才の子供がいるけれどそのことは頭になく、主人の所に行きたいと言うのです。主人の所とは当然あの世のことで、あの世があると信じているのです。「あの世があるとして、ご主人はあなたに会って何と言うでしょう」と尋ねると、「よく来たと私を抱きしめて泣いてくれます」と答えました。私は、「私だったらそうは言わない、僕たちの二人の子供はどうしたと言うでしょう」と言いました。そして、「しっかり子育てをして、もしあの世があ

るならば、しっかりと子供は育てましたよと報告ができるようにしてあの世に言った方が良い」と言いました。この女性はその後子供を置いて一人で海に飛び込んだけれど、残された子供の泣き声で我に返って必死にもがき、通りかかった人に助けられました。

あの世があるかないか、この問題というのはお釈迦様の時代にも結論は出ていませんし、今も出ていません。それよりは、この世で幸せになるよう、子供を育て上げ堂々と人生の定年、つまりいただいた生命が完結して死を迎える瞬間を迎えてください。

今を生きる

余生、余った生とはおもしろい言葉ですね。老後とか余生とかいう発想自体が人間を非常に小さくする。きんさん、ぎんさんは仏教徒でした。100歳の時にお寺の住職から、「最近寺参りが少ないね」と言われて、忙しいからと答えました。さらに「それだけ働いたらお金がたくさん貯まったでしょう、何に使うの」と尋ねられると、二人とも口を揃えて「老後のために取っておく」と答えたそうです。これはすごい言葉ですね。お二人を見ていると、老後とか余生という意識はありません。毎朝目が覚めた時に、今日が本番だと考えていらっしやる。我々の人生は今だ、ということです。あさってでもその次で

もない。過去のことは思い出として残るけれど終わってしまったことです。

今ここで皆さんとお会いできているのは、我々の過去の「今」を積み重ねて今があって、この「今」もどんどん流され変化しています。仏教ではこれを無常と言っています。悩んでいる方にこのことを教えてあげてください。同じことはいつまでも続きません。幸せも苦しみも変化していきます。だから少し待てばいい。

エンゲージド・ブディズム

皆さんの近くに苦悩を持っている人がいたら、寄り添って行って、初めは話をゆっくり聞いてあげて、そうなんだねと1回認めてあげてください。あなたの立場だったら私もそういう風に死にたいと思うかもしれない、と丸ごと受け止めるのです。そうすると、この人は自分のことを分かってくれると心が動くようになり、2回、3回と必ず訪ねてくるようになります。4回、5回の頃には、本当のことを言います。それまでは、ただひたすら話を聞き続けるのです。そして、今度いつ来られるかと聞いてください。来週の水曜日の3時に来られると言われたら、水曜日の3時に必ず待っている、と時間を設定することが、大切です。自分を待っている人がいるという思いが命をつなぐのです。

仏教が行動をするということ、エンゲージド・ブuddhism（engaged Buddhism）という言葉があります。自ら安心立命のためにだけ引きこもるのではなく、同時に現代世界の状況そのものに深く関わっていかうとする姿勢を持つ仏教実践、すなわち、自己と関わる一切のつながりに気付き、その関わりを自己の生活そのものとして生きてゆかんとする仏教。これは、禅僧のティク・ナット・ハンさんの言葉を日本語に訳したものです。理論で仏教を学習することは悪くないけれど、行動しなければなりません。ここが仏教の本来です。行動しなければいくら理論を口にしても意味がない。行学一如という言葉があります。学ぶだけでは足りない、行え、という禅の言葉です。

仏教では基本的に、自らの生命も他の人の生命も、もっと言えば他のすべてを殺してはならないのだと覚えてください。我々は生老病死（しょうろうびょうし）、怨憎会苦（おんぞうえく）、愛別離苦（あいべつりく）、求不得苦（ぐふとつく）、五陰盛苦（ごおんじょうく）というような四苦八苦を持っていますね。それに加えて、私は社会苦と言っています。我々が生まれた世界は実に苦しみに満ちている世界で、そういう世界に生まれてしまったのだから、先ほどお話ししたような社会的な苦悩がつきまとうのはある意味では当たり前前

なのです。そのつきまとう苦しみをどう解決していくかという羅針盤こそがお釈迦様の説かれた様々な教えなのだということになるわけです。



慈悲という言い方がありますね。慈と悲は実は内容が違いまして、慈は与楽、安楽を与える慈しみの心です。悲というのは他者の苦を取り除くことです。慈悲といたら、安楽を与え、苦悩を持っている方々に寄り添って他者の苦を取り除く思いやりのことです。身近であれ離れた所であれ、孤立に置かれる環境は作らないのが一つ。それからどうぞ慈悲の思いを本当に豊かにお持ちいただいて、これからのご自分の人生をお過ごしください。人間は一人では絶対生きていけません。

人と人との関わりでこそ生きていける、だから人間というのです。人の間と書くではないですか。仏教が「にんげん」と呼んだので、本当は「じんかん」です。人と人の間にできた空間、つまり自分と自分以外の間を何で埋めていくか、不幸な条件で埋めるのか、幸せになる条件で埋めるのか。我々はこの世に二度とない人生をいただいた

のですから、当然幸福なる条件で埋め合っ、そして幸福な人生を送って、人生の定年が来た時にはさらりと逝く、これが仏教の基本的な考え方だと受け止めていただいて間違いないと思います。

* 長寿院のウェブサイト
<http://www.choujuin.com>

活動報告

・東日本大震災支援活動： 2012年9月27日 岩手県へ支援物資を送付

協会では、前回同様、SAVE IWATE に下記の物資をお送りいたしました（9月27日と28日に到着済み）。現在 SAVE IWATE では、盛岡及び近隣市町村へ避難してきている方々の中でも、被災者の中に二割はいると言われている「生活困窮者（おとしよりや体の不自由な方）」の方々への優先的な物資支援（個別配送）をしています。

① 新潟県産1等米 棚田米コシヒカリ
平成23年度産 5kg×60袋 合計300kg

② スコッティ BOXティッシュ 500箱

③ トイレットペーパー 540ロール

ヴェーダーンタ協会では、これからも震災で被害に遭われた生活困窮者の方々へ、定期的に生活必需品を送って

いきます。

・浜松講話：10月8日に開催され、参加者は26名程でした。

・スワーム・メーダサーナンダ帰国：11月11日、マハーラージがインドから帰国されました。日本出発時には数名の信者の方々が一緒でしたが、皆さんは一足早く帰国されました。信者の方によるインド滞在記は、今後のニュースレターに掲載の予定です。

・関西講話：11月24日、大阪にて開催されました。

・四国講話：11月25日～26日、マハーラージは「瞑想」、「神とは何ですか?」、「肯定的な生き方」をテーマに四国にて講話を行いました。

忘れられない物語

辛抱強い老人

ある時、遊牧民が山の峠を通りかかると、老人に出くわしました。老人は目が見えず、からだ中さまざまな病気に蝕まれている様子で、明らかに衰弱しつつありました。からだも動かないので、ただ座っているだけでした。遊牧民には、老人がこう言うのがはっきりと聞こえました。「アラーの神こそ讃えられるべきお方。ご自身の創造物たる

者たちの多くに与えた病の試練から私を守ってくださった。アラーは皆の中から私を選んでくださったのだ」

「じいさんよ」と、遊牧民は叫びました。「何から救われたって？そんなにたくさん病気にかかったのは、アラーのせいだろうに」

「あっちに行け」と、老人は頭を上げて言いました。「私にはまだ舌があり、アラーこそが唯一の神だと唱えることができるではないか。その御名を唱えてアラーをいつでも心に浮かべることができるではないか。私にはまだ心臓があって命があり、アラーが分かるではないか」

老人のこの言葉を聞き、遊牧民はアラーに自分の罪を懺悔し、許しを乞いました。

自分よりも大きな悩みを抱えている人が常にいるのを忘れてはなりません。

(出典：IslamCan.com)

今月の思想

「我々は、個々が別個の存在であるという幻から目覚めるためにここにいるのだ」

(ティク・ナット・ハン)

発行：日本ヴェーダーンタ協会

249-0001 神奈川県逗子市久木 4-18-1

Tel: 046-873-0428

Fax: 046-873-0592

Website: <http://www.vedanta.jp>

Email: info@vedanta.jp